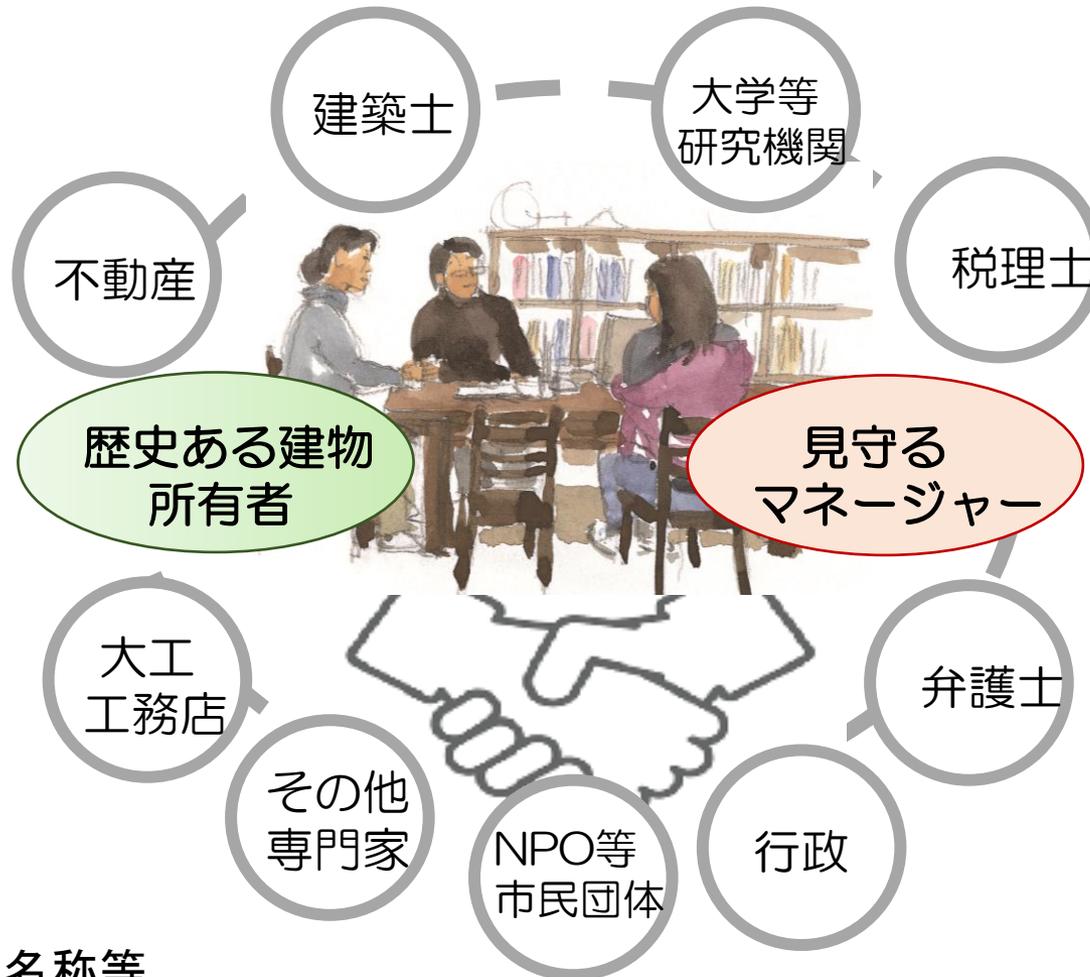


「残したい建物を見守るシステム (仮称)」の整備



(1) 事業名称等

【事業名称】 「残したい建物を見守るシステム(仮称)」の整備

【実施団体】 特定非営利活動法人 古材文化の会

【事業経費】 932, 221円

(2)事業の目的

- 近年、国宝や重要文化財ではないが、国登録有形文化財などの身近な歴史的建物をどのように発見し、保存し、活用するかが大きな課題となっている。
- 古材文化の会は、歴史的文化的建造物を社会的に継承するために、建物を残したいと願う所有者と一緒に保存や活用に取り組む新しい社会事業の創設に向けて、平成26年4月から「残したい建物を見守るシステム(仮称)」を試行運営している。
- 本事業では、試行対象の(財)長谷川歴史・文化・交流の家のサポート活動の経験等を踏まえながら、「残したい建物を見守るシステム(仮称)」を社会事業として成り立たせていくために必要な事項を網羅的に検討することを事業目的とした。



長谷川家住宅



見守るシステム構築検討委員会

(3) 事業活動の内容

- 見守るシステムワークショップ(6回)
- 見守るシステム構築検討会(3回)、
- 見守るシステム構築検討報告会(1回)
- 検討報告書の作成(完成予定3月21日)
- (財)長谷川歴史・文化・交流の家のサポート活動(2回)



①東九条と農家住宅を考えるシンポジウム



②東九条の歴史を学ぶバスツアー

(4)事業の成果

歴史ある建物を残したいと願う所有者と想いを共有し、これに寄り添った支援を行う事業の必要性について確認ができた。

事業実施にあたり合意できた基本項目と以下の検討課題が明らかになった。

- ①システムにおけるサービスの範囲の決定
- ②システム運用に必要な経費の試算と調達方法の検討・確立
- ③システムの運用における、NPO法人古材文化の会としての意思決定 など

また、(財)長谷川歴史・文化・交流の家での支援活動の総括では、サポートは所有者と当会がサポート実施前に契約を結んで行うことが適切であるとの結論を得た。



試行対象の
K家の茅葺き
ワークショップ



(5) 事業実施後の課題

今後は、提起された課題を見守るシステムの試行を継続しながら歴史ある建物の所有者を支援する仕組みの事業化を目指して行きたい。

特に、見守るシステムのようなNPO法人が支える文化財建造物の保存や活用の成果が見える形で社会に発信することによって、企業や市民からの寄附を集めて活動の基金とする可能性は感じている。



改修された試行対象の
K家は地域のイベントで
来訪者の喫茶席として
使用された

(6) 今後の展開

試行を引き続き継続し、残された課題に取り組んでいく。

- ・伴走型の歴史的建物の所有者支援の仕組みの完成を図ること。
- ・試行による成果を整理して、社会的に発信すること。
- ・システムの専門家の業務への公正な評価システムを整備すること。
- ・システムに参加する見守るマネージャーの倫理規定を確立すること。



マネージャーの活動

(7) その他

NPO法人古材文化の会は普及啓発型として団体の発足をした関係で、事業型のNPO活動への転換に関しては会員相互の合意形成に時間がかかる。これを逆に活用して、会全体として歴史ある建物の保存活用の責任を所有者のみに押し付けない仕組み、所有者に寄り添う支援の仕組みを丁寧に完成させていく原動力としたい。



古材文化の会の総会